

# 『書の教室』から

## 『書道芸術学生版』へ

原点に帰り新たなる出発

「書道芸術学生版」

スタートにあたり

(財)書道芸術院 理事長 辻元 大雲

これまで「書の教室」として皆様にご愛顧いただきましたが、発行元が「全日本学校書道連盟」から「財団法人書道芸術院」へと移行されたことと、商標登録の関係から今回発行の平成25年4月号より「書道芸術学生版」へと誌名を変更することになりました。

創刊号は別掲の通り、昭和28年12月発行でした。以来60有余年の歴史を刻んでまいり今号で通巻712号となりました。  
ご購読いただいている生徒の皆さん、ご指導いただいている先生方のご支援ご愛顧を今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



### ★表紙でみる本誌の歴史



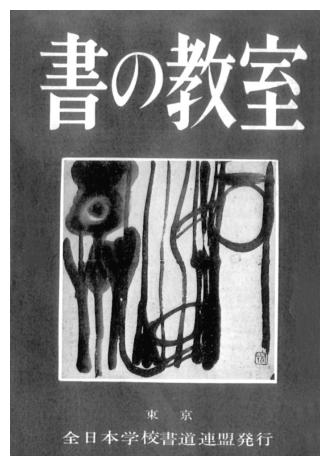
200号  
(1970年7月)

写真は東海道の名刹と讚えられた

『藤沢山無量光院清淨寺』  
当時は日本の神社仏閣の写真が多くったようです。



小伏竹村先生書  
(現名誉顧問)  
文字は『夢』  
当時の表紙は中国各地の風景写真が多くったようです。

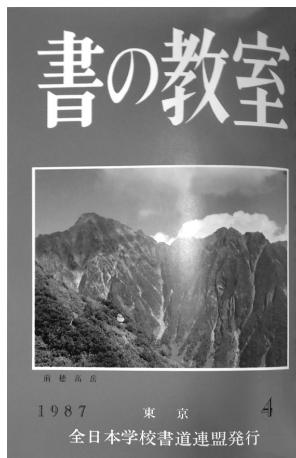


大澤雅休先生書  
現代モダン派の巨匠であった。文字は『洞中仙草』  
当時の表紙は書道芸術院の幹部の前衛書作品が多くたようです。



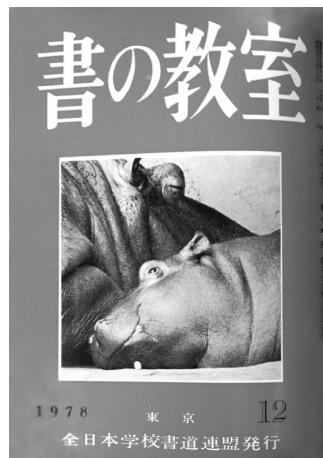
500号  
(1995年8月)

「書の教室」を創り育ててくださった香川峰雲先生の作品。  
石に刀で刻った『共存共栄』  
当時は子供達の「遊び」の写真が多かったです。



400号  
(1987年4月)

『前穂高岳』の勇壮な風景写真。  
当時は山の写真が多く、特に四季折々の富士山は絶景でした。



300号  
(1978年12月)

生後一年半近くの子どものかばです。成長すると体長4m体重は2500kgになるそうです。当時はいろいろな動物の写真が表紙を飾っていました。



700号  
(2012年4月)

2001年4月号(568号)から表紙を全国学生書道展の優秀作品を取り上げて現在に至っています。



600号  
(2003年12月)

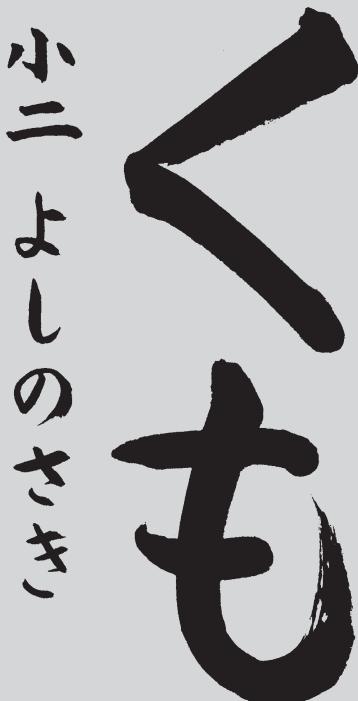
香川峰雪先生の『篆刻』作品  
『天驅ける馬』  
切れ味のよい細長い線がみごとです。

- △編集部から▽
- ・4月号から、幼児・小学1年生の毛筆課題を、ひらがな一文字と二文字にしました。(幼児に配慮いたしました。)  
ただし、幼児も小一もどちらの課題を書いても結構です。
- ・出来る限り多くの声を取り入れて充実を計りたいと思います。ご協力ください。

〔4月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

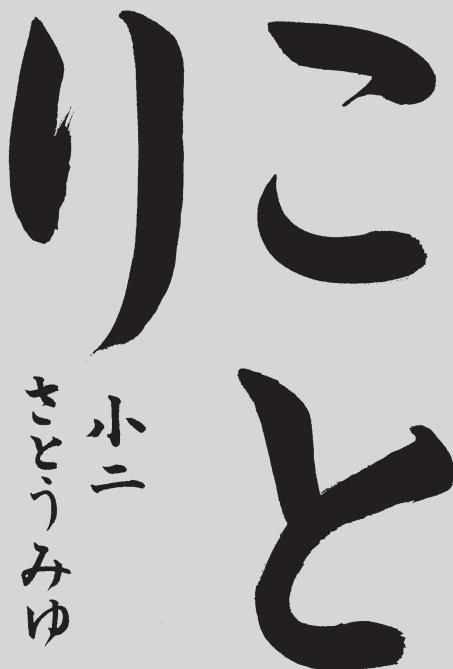


半田藤扇先生

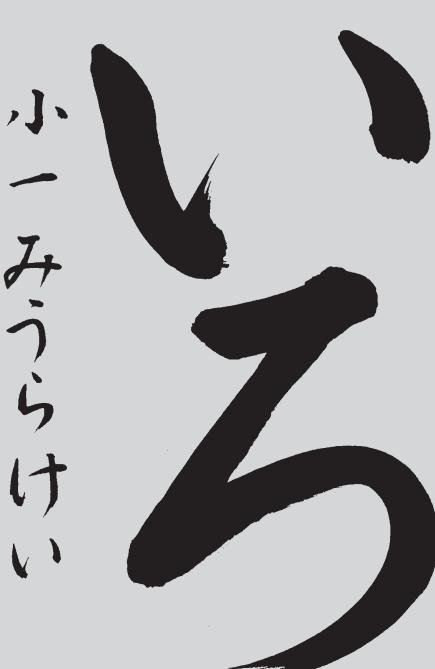
幼・小学1年参考手本



佐藤菜扇先生



名越蒼竹先生



大野祥雲先生

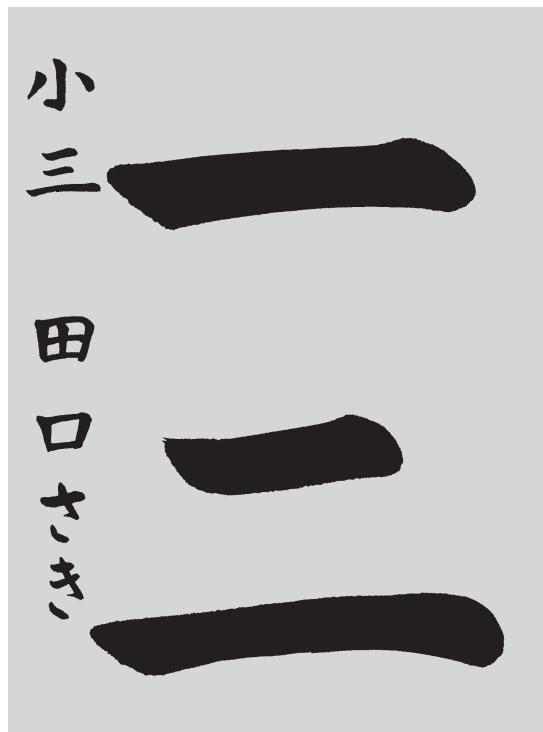
〔4月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学4年参考手本

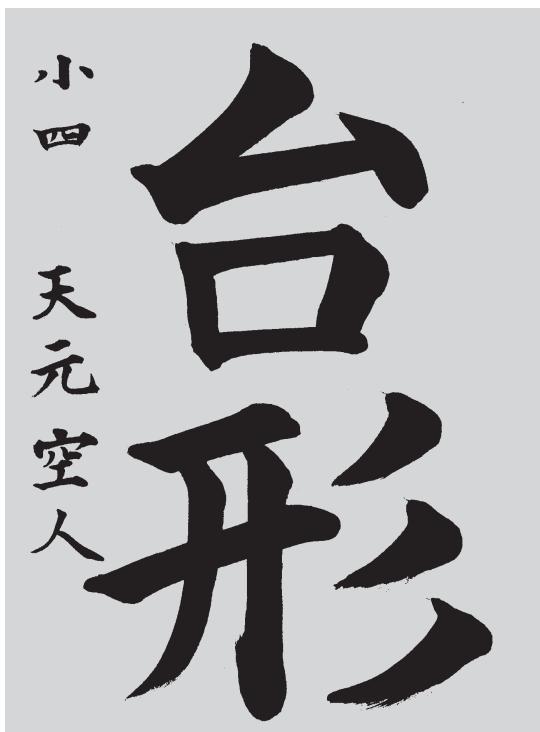


弓削光峰先生

小学3年参考手本



広瀬舟雲先生



尾形澄神先生



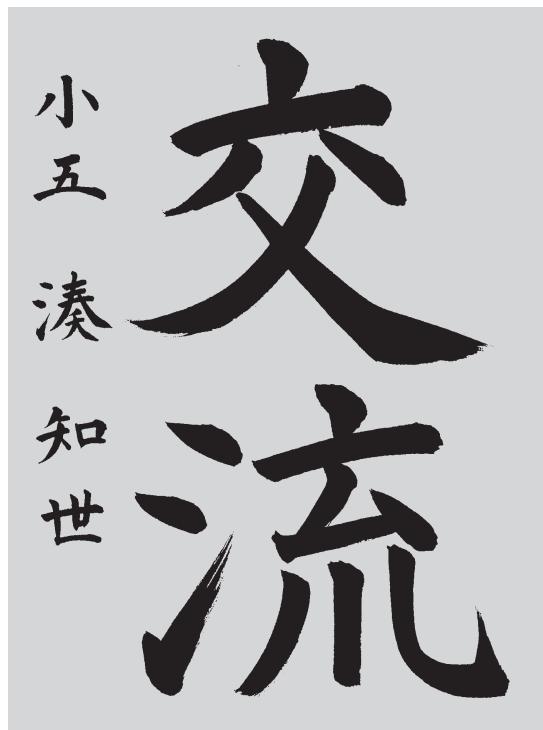
西林乘宣先生

〔4月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学6年参考手本

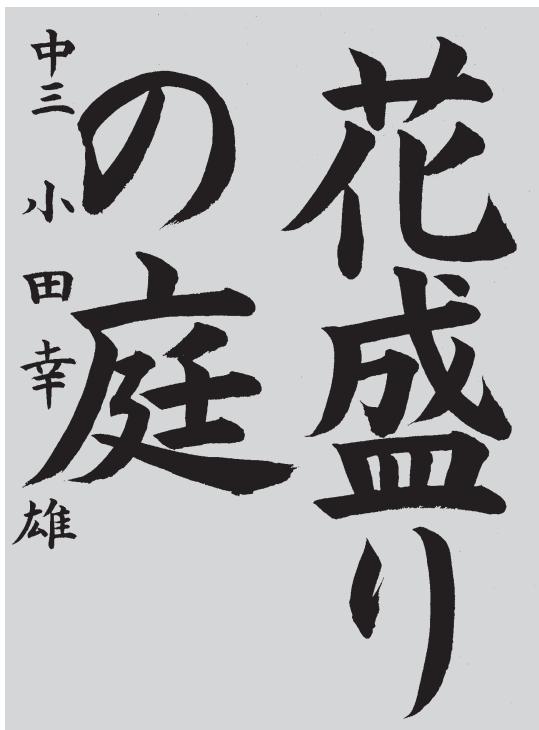


小学5年参考手本

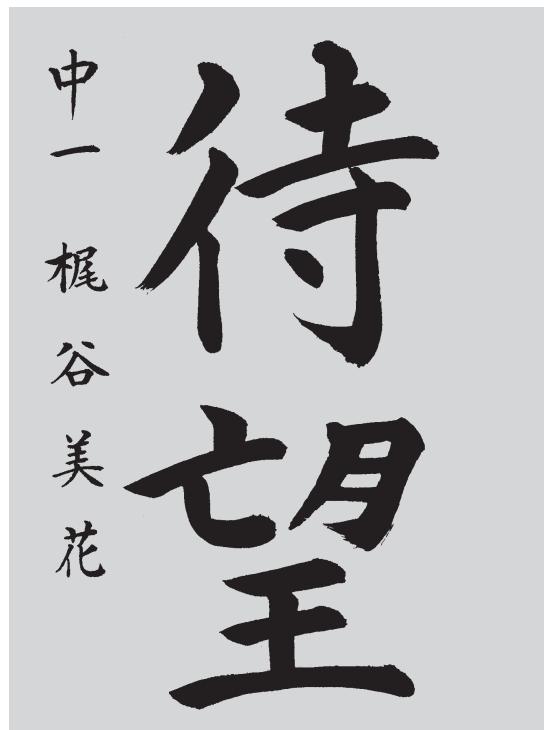


〔4月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

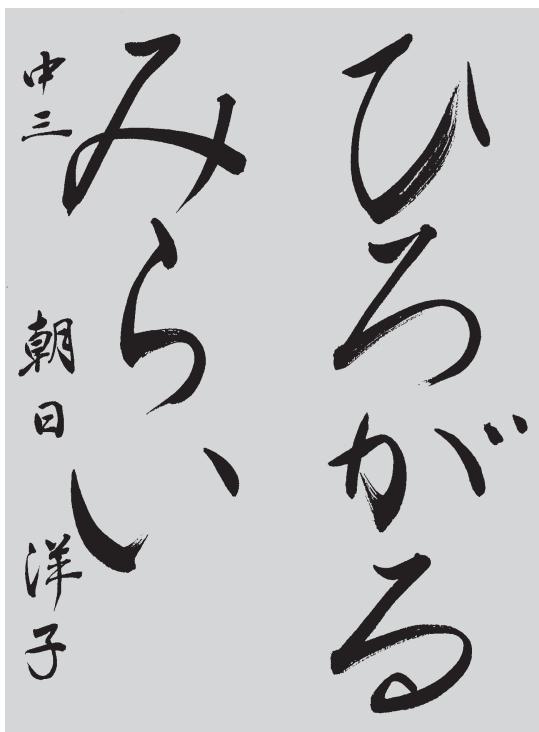
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



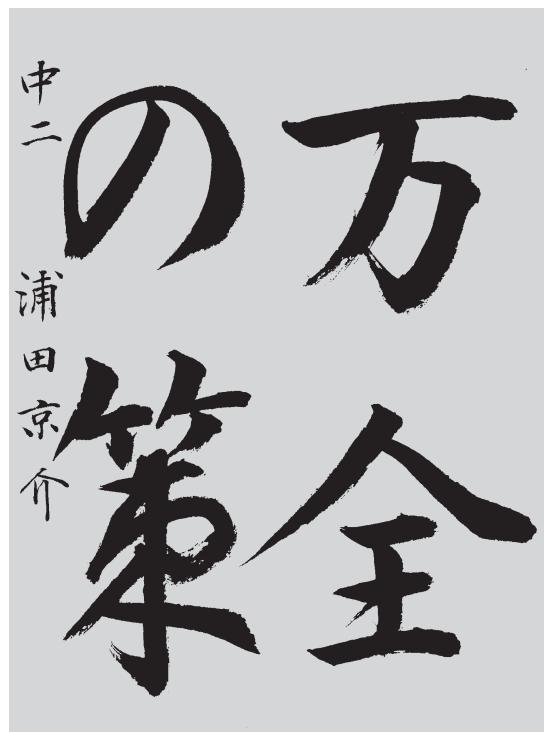
小竹石雲先生



島田白露先生



辻元大雲先生



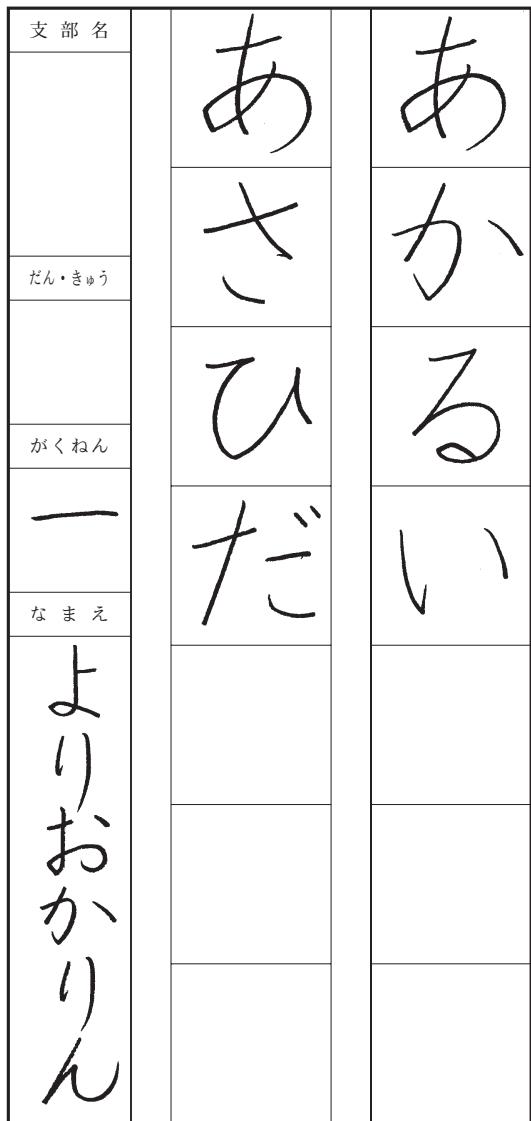
小伏小扇先生

# 硬筆参考手本

解説 辻元大雲先生

## [4月10日締切課題]

幼・小学1年



あ  
さ  
ひ  
だ  
あ  
か  
る  
い



『あさひ』  
「とめ」「はね」「はらい」にきをつけて  
かきましょう。  
『とめ』  
「とめ」「ぱらり」とちゅうい

- ◎各学年に「学習のめあて」をつけました。  
「なにをれんしゅうするか」をはっきりして一生けんめい書きましょう。
- ◎書写用具は、えんぴつ(HB又はBが望ましい)、フェルトペン、ボールペン、その他学年に応じたものを使用してよろしい。
- ◎学年は漢数字(1, 2, 3, …), 級は算用数字(10, 9, 8, …), 段は漢数字(1, 3, 四)と記入。
- ◎作品に、学年と自分の「氏」「名」を本人が書く。
- ◎幼・小一の方は学年を書かなくてもよい。
- ◎支部・支局名は、本人が書けない場合は、ゴム印でもよい。
- ◎出品券は清書の右下にはってください。毛筆、硬筆の貼り間違いにご注意ください。

〔4月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学3年

小学2年

支部名	び		
段・級	を	三	角
学年	し	角	公
三	ま	公	園
名前	し	園	で
赤木美由	た	で	な
	。	な	わ
		わ	と

園

画と画の間に注意

公

左右の「はらい」の長さ  
「ム」のいち

角

筆順  
△角角角  
たて画が下に出ない

漢字の形を正しく整えて書きましょう。  
『三角公園』

支部名	竹		
段・級	や	春	風
学年	ぶ	に	に
二	が	ふ	か
名前	ゆ	れ	れ
川田草太	る	る	て
	。		、

竹

はね  
とめ  
せっしかたにちゅうに

風

そる  
とめ「はね」「はらい」に  
ちゅうい

春

二五からくはらかく  
左右のはらいの長さを  
つりあいよく

「春風」の字形をたやすくかきましょう。

〔4月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学五年

支部名		向	少	
段・級		け	し	
学年		て	広	
五		み	い	
名前		ま	世	回
平川歩		し	界	りだ
		よ	に	けで
		う	閑	な
		。	心	く
			を	

『関心』  
字形を整えてていねいに書きましょう。

小学四年

支 部 名		が	湖	
段・級		か	に	太
学 年		が	面	陽
四		や	し	が
名 前		い	た	山
池 和 都		て	林	を
		い	の	は
		る	上	な
		.	の	れ
			雲	、

三つ部分の組み立て方に注目

云 (くも) 湖 (こ) 陽 (よう)

とめ  
と  
と  
とめ  
と  
と  
雨 (あめ) (かんむり) と  
小さい「云」の組み立て

漢字の外形を見て、正しく整えて書きましょう。

〔4月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

中 学 生

支 部 名	一つ一つの星の輝きが違うよ
段・級	うに、私たちの胸から羽ばたこ
学 年	うとする夢はちがう。
中 三	
名 前	
大久保 誠	

羽星夢私

夢  
行がゆがまないよう<sup>に</sup>氣をつけて書きましょう  
星の輝きが違う

小学 6 年

支 部 名	
段・級	小 学 校
学 年	生 活 最 後 の 一
六	思 い 出 に 残 る
名 前	。 思 い 出 に 残 る
加 賀 紀 子	。 学 習 記 錄 を 作 り た い

小 大  
錄。

思

に注意

中心  
最

筆順

三順

三

量

量

最

1

## 「学習記録」

筆順を学ぼう

180

	台	ダイ タイ	ノ ム ノ 台 台	
4年	形	ケイ ギョウ かた かたち	ニ ナ 幹 幹 形 形	
5年	交	コウ まじ・わる まじ・える ま・じる ま・ざる ま・ぜる か・う か・わす	、 一 六 亥 交	
	流	リュウ ル なが・れる なが・す	ノ 汝 汝 流 流	
	情	ジョウ セイ なさ・け	ハ 小 忙 忙 情	
6年	貿	ボウ	レ 纔 留 貿	(180)
	易	エキ イ やさ・しい	日 戸 易 易 易	
	待	タイ ま・つ	タ 行 徒 徒 待	
	望	ボウ モウ のぞ・む	一 亡 切 望 望	
中学	策	サク	メ 竹 笛 笛 策	
	盛	セイ ジョウ も・る さか・る さか・ん	ノ 厂 成 成 成 盛	
	庭	テイ にわ	一 广 庄 庄 庭 庭	

# 行書を学ぼう (188)

(中学生の課題より、辻元大雲先生書)

行書と教科書体楷書の「ちがいを見つけましょう」



# ひらがなの字源 (188)

\* 源字については、異字体から変遷したものに \*印を付して()にその字体を記した。  
\* 字形は古筆から抽出した。上段には源字に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

い	ら	み	る	が	ろ	ひ	源字	字形
以 い い	良 ら ら	美 み み	留 る る	加 か か	呂 ろ ろ	比 ヒ ヒ		

書写教育  
全国大学書写書道教育学会編より転載

# 書道芸術学生版

## 春季昇級試験規定

• • 硬筆

一、しめきり日 5月10日(金)

一、発表 5月下旬

### 毛筆の部

一、課題

○試験は次の課題文字による。

幼・小学校一年生 とも (かいしょ)

二年生 まり (かいしょ)

三年生 はれ (かいしょ)

四年生 大石 (かいしょ)

五年生 努力 (かいしょ)

六年生 歴史 (かいしょ)

中学校一年生 快走 (楷書か行書)

二年生 登校 (楷書か行書)

三年生 創造 (楷書か行書)

一、受験料 各部一点 500円

毛筆  
硬筆  
共 一人一点



一、書体

○小学生は楷書 (かいしょ)

○中学生は楷書または行書

一、清書には、「学年」「氏」「名」を受験生

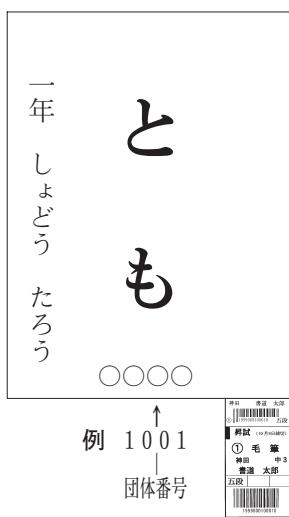
本人が毛筆で書く。(幼・小の方  
は、学年を書かなくてもよい)

一、受験票

応募書類と同送される段級が印字された「昇級試験用」バーコード出品券を清書の右下にしっかり貼付する。  
(毛筆・硬筆共)

○応募書類は4月25日以後に、受験番号を記入した応募書類と「昇級試験用」バーコード出品券を送付する。

○左図のように記入して出品する。  
作品中央下に赤字で団体番号を記入する。



○くわしいきまりは、追ってお知らせいたします。

※5月号の購読部数を超える受験はできません。

○受験料は、指定の振替用紙で締切日までに送金のこと。

## 硬筆の部

小学 2 年

支部名	ろ	い	ま	し	た
段・級	川	で	、	貝	
学年	一	ま	な	が	ら
名前	丸	な	べ	ぐ	を
	山	べ	や	ゆ	ひ
	直	ま	べ	や	
	大	ら	べ	や	

小学 1 年

支部名	く	も	の	う	え
段・級	だん・きゅう				
学年	がくねん				
名前	一	ま	な	べ	え
	なまえ				

### 一、課題

- 一、くわしい規定は、「毛筆」と同じです。
- 二、用紙は、本連盟指定のものを使用するか、もしくは指定の用紙を「コピーして、原紙の大きさにあわせて切って出品する。○学年相当の用紙で書く。
- 三、課題（各学年用）文字は、参考手本通りに書く。
- 「空欄」「。」「、」も正しく書く。

小学 4 年

支部名	び	ま	し	た	の	成	り	立	ち	に	つ	い	て	学
段・級	國	語	の	時	間	に	、	言	葉					
学年	四	三	二	一	ま	な	べ	ぐ	を	ま	な	べ	え	る
名前	小	木	村	愛	る	め	い	か	う	め	め	め	め	る
	野	村	愛	里	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	歩	村	愛	里	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
	夢	村	愛	里	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

小学 3 年

支部名	を	し	ま	し	よ	う	。	友	だ	ち	と	会	つ	て	話
段・級	段・級							段・級							
学年	三	二	一	ま	な	べ	え	三	二	一	ま	な	べ	え	る
名前	木	村	愛	る	め	い	か	木	村	愛	る	め	い	か	る
	村	愛	里	。	。	。	。	村	愛	里	。	。	。	。	。

- 一、清書には、「学年」「氏」「名」を受験生本人が書く。
- 二、幼・小一の方は学年を書かなくてよい。
- 例「まなべ ゆう」
- 支局、支部名は、本人が書けない場合はゴム印でもよい。
- 一、受験票は、応募書類と同送される段級が印字された「昇級試験用」バーコード出品券を清書の右下にしっかりと貼付する。

※5月号の購読部数を超える受験はできません。

## 中 学 年

## 小 学 6 年

## 小 学 5 年

支部名	
段・級	
学年	
中一	
名前	広田 直子

使いやすい物ほど長く使われ、  
それが得がたい物と思われながら、  
いつしか美術品となっていく。

## 硬筆用紙申し込みについてお願い

○代金は、硬筆用紙専用の「払込取扱票」で、用紙代（送料含む）前納でお申し込みください。  
（電話の注文はお受けいたしません。）

○発送については、都合により数日かかることもありますので、余裕をもってお申し込みください。

支部名	
段・級	
学年	
六	
名前	熊谷 友輝

は、あの坂の上の空の色  
あさぎ色をしている。  
確かに海へと続く。

支部名	
段・級	
学年	
五	
名前	松尾 かりん

散るのを見ました。  
あかつきの空に光つて  
ぱと、白い羽が、

## 春季昇級試験

## 硬筆の部

を受験される方へ

春季昇級試験で  
硬筆の部を受験さ  
れる方は、

本連盟指定の用紙  
(月例と同じ用紙)  
を使用するか、も

しくは指定の用紙  
をコピーして、原  
紙の大きさにあわ  
せて切って出品し  
てください。

用紙は、一冊30枚  
つづり。送料を含  
んだ金額は下記の  
通りです。

◎硬筆用紙は、学年別に4種類あります。

- ① 幼・1年生用 ② 4・5・6年生用
- ③ 2・3年生用 ④ 中学生用

## 料金表（送料含む）

硬筆用紙9冊以下(1冊100円+送料)					
冊数	金額	冊数	金額	冊数	金額
1	240 円	4	610 円	7	990 円
2	400	5	790	8	1,090
3	510	6	890	9	1,240

10冊以上のご注文は、送料無料。

# 漢字に親しもう

(37)



今月は『温故知新』の四字熟語の意味と使い方について学んでみよう。

## 『温故知新』

△意味△昔のことをよく研究し、それを参考に、今つき当たっている問題や新しいことがらについて考えること。

### △解説△

進めたい。

△例文△大切なのは温故知新だ。過去の書物をよく読んだ上で研究を進めたい。

△解説△

『温故知新』は孔子という人が『論語』の中で言つた言葉。『温』は肉をとろとろになるまで煮詰めること。『故』とは昔のことという意味。つまり昔のことをじっくり調べていけば、新しいことを知ることができるとつていています。

日本では『ふるきをたずねて新しきを知る』といったり、『ふるきを温めて新しきを知る』とも言われています。



- 今月号から装いも新たに『書道芸術学生版』がスタートしました。『書の教室』の創刊は昭和28年(1953年)12月、60年前になります。この機会にと創刊号から71号まで振り返ってみて多くの「思い」がいっぱいつまつた『書の教室』である事が良くわかります。創刊当時は、都道府県単位での学生の競書誌は多く出ていたようですが、全国規模での先がけだったようですね。
- 『温故知新』という四字熟語を思い出します。創刊からの熱き思いを継承して新しい『書道芸術学生版』を作る大きな責務を感じています。これからも多くの先生方のご指導ご協力を賜りながらより良い、役に立つ本の発行を目指しますのでご期待ください。
- 春季昇級試験の課題を掲載しました。作品の締め切りは5月10日(金)です。余裕を持って頑張りましょう。力作をお待ちしています。
- 卒業式の季節になりました。世の中は出会いと別れの連続ですが、縁を深めて生きていけるかどうかが人生のポイントになるように思いました。「出会いを大切に」大きく羽ばたいてほしいものです。6年生、中学3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

(鄭街)